



令和7年3月  
京丹後市教育委員会

# 令和7年度 学校教育 指導の重点

「探究的な学び」の実現・充実による  
グローバル人材の育成



- 問題解決能力
- 多様な他者と協働する力
- コミュニケーションツールとしての英語運用能力

京丹後市教育委員会では、京丹後市総合計画・京丹後市教育大綱との整合をはかり、一人ひとりのWell-beingの向上を目指した新たな京丹後市教育振興計画を令和7年4月に策定しました。

本計画にあげられたプロジェクト1・2・3の実現に向けては、市内学校園所教職員で方向性を共有しての連携・協働が必要となりますので、この「学校教育指導の重点」においては、市として目指す教育の方向性や令和7年度に重点的に取り組む内容を整理・記述しています。

上記のような目的で作成しているため、国や京都府教育委員会が示す教育・保育に関するすべての内容を網羅するものではありません。必要に応じて、より上位の法令・通知等も参照し、各校園所での研究・実践をより一層推進してください。

[▶「京丹後市の新たな教育・人材育成の在り方に関する検討会 最終まとめ」](#)



【国】  
第4期教育振興基本計画

【京都府】  
第2期京都府教育振興プラン

第3次京丹後市総合計画  
京丹後市教育大綱



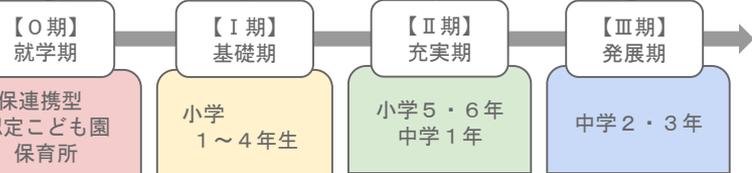
子どもの育ちと指導の一貫性を目指した教育

市「グローバル人材の育成」

各学園・各学校園所 教育目標



保幼小中一貫教育推進基本計画



保幼小接続  
(架け橋期の教育の充実)

小中接続  
(連続性・一貫性ある指導・支援)

京丹後市教育振興計画

学校教育指導の重点

社会教育推進の重点



# 「社会を生き抜く力」を育む京丹後市の教育【全体イメージ】

## グローバル人材育成

- ✓ 問題解決能力
- ✓ 多様な他者と協働する力
- ✓ コミュニケーションツールとしての英語運用能力

京丹後市として  
重点化する資質・能力

3つのマインドセット

出典:一般社団法人SKY Labo



## 探究的な学び

を  
繰り返すスパイラル型のプロセスが必要

「主体的・対話的で深い学び」  
実現のための手法

子どもたちが「なぜ?」「どうすれば?」と考える問いを出発点に、  
自分たちで解決策を探し、自分なりの解を見つける学び

ICTを効果的に活用した

個別最適な学び (学習の個性化・指導の個別化) ・協働的な学びの実現

すべての子の  
学びと育ちを  
保障する  
【公教育の目指す姿】

個・集団のアセスメント  
(状況把握・要因分析)

居場所づくり  
(心理的安全性の確保)

すべての子に  
「包み込まれている」という  
感覚をもたらす  
【教職員の取り組む姿勢】

教職員個々の資質・能力  
及び学校力の向上

幼児期からの一貫した  
「子ども自身が生活・学びの主体者である」  
という揺るぎなき姿勢の堅持

学校・保護者・地域の  
連携・協働体制の強化

◆はじめに◆

公教育を担う私たち教職員は、どのような役割・責任を果たすべきなのか。

1 公教育を担う教職員の責務

2 教職員個々の資質・能力及び学校力の向上

§ 1

教育の方向性

社会・教育に関する全国的な動向や本市の状況を踏まえ、本市では「**社会を生き抜く力**」の育成を教育・保育の柱とします。

- 1 VUCAの時代にも対応できる「社会を生き抜く力」
- 2 すべての教育活動で大事にしたいこと

§ 2

市として重点化する資質・能力（グローバル人材）

社会を生き抜くために必要となる資質・能力から**3つを重点化**し、その育成に向けた研究・実践を全市域で推進します。

- 1 市として育成を目指すグローバル人材
- 2 日々の教育活動の基盤となる考え方【3つのマインドセット】

§ 3

グローバル人材育成のための手段（探究的な学び）

目的である「グローバル人材育成」を実現していくためには、重点化された**3つの資質・能力と関連付けて**、「丹後学」をはじめとする**日常の教育・保育活動を構想・実施・評価していくことが必須**です。

- 1 個別最適な学び・協働的な学び
- 2 基盤①...個・集団のアセスメント
- 3 基盤②...安心できる居場所づくり

§ 4

保幼小中一貫教育の枠組みの効果的活用

「グローバル人材」として重点化された**資質・能力の育成には、中長期のスパンで計画的・系統的に指導・支援を積み上げていくことが必須**です。

- 1 幼児期からの一貫した系統的な学び
- 2 学園運営協議会の機能化による学校・地域の連携・協働体制の強化

# ❖はじめに❖ 公教育を担う私たち教職員の果たすべき役割と責任

## 1 公教育を担う教職員の責務

私たち教職員は、全ての子どもたちに対して公平かつ平等な教育の機会を提供し、学力の向上だけでなく、社会的・道徳的な成長を支援することが必要です。また、多様な背景をもつ子どもたちに対して、一人ひとりの個性やニーズを理解した上で、高い人権意識をもって指導を行い、差別や偏見のない環境づくりを促進することが重要です。

また、教職員一人ひとりが、教育・保育改革の推進者であるとの自覚のもとに変化を前向きに捉え、日々の教育・保育活動を主体的・組織的に推進し、市民の信託と期待に応えるために総力をあげなければなりません。

▶「京都府公立学校教職員コンプライアンスハンドブック」(京都府教育委員会)

## §1 教育の方向性

### 1 VUCAの時代にも対応できる「社会を生き抜く力」

社会や経済、テクノロジーの変化が急激で予測しづらい現状においては、柔軟に対応し、変化に適応する力が求められます。

京丹後市では、一人ひとりの子どもが、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き持続可能な社会の創り手となる必要があると考えています。本市では、この力を「社会を生き抜く力」とし、その重点化する資質・能力を「グローバル人材」と位置付け、京丹後市の教育を推進していきます。

### 2 教職員個々の資質・能力及び学校力の向上

教育の本質は、教育基本法第9条第1項に規定されているとおり、教師は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に務めることが求められています。その時間を生み出すための働き方改革であることは忘れてはいけません。

さらに、学校園所が、学園及び学校園所の目標を実現したり、直面する様々な教育課題を克服したりできる組織として進化するために、教職員集団の多様性を活かした研究・実践を日常的・組織的に積み上げていくことも重要になります。

### 2 すべての教育活動で大事にしたいこと

- ◆様々な変化する時代を「教育を再構築するチャンス」と捉え、グローバル人材の育成を目指した研究実践を積み重ねていきます。
- ◆誰一人取り残さない教育を推進するため、個々の子どものアセスメントを丁寧に行い、発達支持的生徒指導の側面に重点を置いた働きかけをすすめます。
- ◆子どもたちの安心できる環境づくりのために、学校は家庭や地域と対話を重ねながら連携・協働を深め、地域全体で子どもを育む学校園所を目指します。

## §2 市として重点化する資質・能力 【グローバル人材】

社会が急速に変化し、世界がより深くつながる中で、子どもたちはこれからグローバル社会で生きていくこととなります。このような時代には、多様な文化や価値観を理解し、他者と協力しながら、自分の役割を果たしていく力が必要です。

京丹後市が「グローバル人材育成」を教育の柱に据えるのは、子どもたちが地域に根差しながらも広い視野を持ち、世界とつながり、未来を切り拓いていく力を育むためです。

▶「グローバル人材育成のために(ロードマップ)」(京丹後市教育委員会)

### 1 市として育成を目指すグローバル人材

子どもたちがこれからのグローバル社会で自分らしく活躍するために、次の3つの資質・能力の育成を重視します。

#### ◎問題解決能力

主体的に問題を発見し、その解決方法を考え、実行に移し、振り返って次の問題の発見・解決につなげる力。子どもたちが「未来を創る主役」として活躍するための基礎となります。

#### ◎多様な他者と協働する力

異なる背景を持つ人々と共に学び、共感し合いながら共通の目的に向かい、今まだないものを創り出そうとする力。子どもたちが自分のアイデンティティを大切にしながら、多文化共生の中で主体的に生きていくための基盤となります。

#### ◎コミュニケーションツールとしての英語運用能力

英語で考え、伝え、対話する力を育み、子どもたちが地域と世界をつなぐ架け橋として活躍できる力。その基盤となるコミュニケーション能力を、発達段階に応じた言語を中心に、すべての教育活動をとおして育成します。

### 2 日々の教育活動の基盤となる考え方 (3つのマインドセット)

子どもたちの主体性や意欲を引き出し、「グローバル人材」に求められる3つの資質・能力を育成するためには、教員自身が以下の3つの姿勢を実践し、子どもたちにもその姿勢を意識付けていくことが大切です。



**Think out of the box**  
型にハマらず発想する



**Give it a try**  
ひとまずやってみる



**Fail forward**  
つまづくことで飛躍する

【注意】一般社団法人SKY Laboの知的財産保護の観点から、ご使用の必ず出典もとを記載ください。  
出典: センゾウ真澄(著)・木島里江(著)『世界を変えろTEAM人材』(インフォシール)「デザイン思考」の核心 | 朝日新聞 2019年 第3版

枠にとらわれず柔軟に考え、積極的に挑戦し、失敗を成長の糧に変える姿勢を大切にしましょう。この3つのマインドセットを共有することで、子どもたちが自分自身で考え、挑戦し、失敗を恐れず学び続ける力を育むことができます。また、教員自身がその姿勢を楽しみながら実践することで、子どもたちも自然に学びの喜びを感じられるようになります。

今、なぜ「探究的な学び」なのか。その答えは、市としてすべての子どもたちに育みたいと考えるものが「グローバル人材」として表した3つの資質・能力だからです。一輪車に乗れるようになるには、実際に乗る経験を積まなければならないのと同じように、問題解決能力や協働性を育むためには、子どもたちが問題解決の場面や多様な他者と協働する場面を数多く経験することが不可欠です。だからこそ、学習の主体者である子どもたち自身が「探究の過程」を繰り返しながら課題解決に取り組んでいく「探究的な学び」を、日常の保育・教育活動に積極的に取り入れることが重要だと考えます。

学校園所での「探究的な学び」を効果的に実践するためには、「丹後学」の実践研究を中心に、重点化された資質・能力を構成する要素を整理し、学園（学校園所）としての一貫性や系統性を確保・共有することが必要です。また、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点を取り入れ、保育や授業を構想・実施・評価することも重要です。特に、「個別最適な学び・協働的な学び」を実現するためには、特別支援教育の手法（アセスメント）を活用したり、生徒指導提要の趣旨を踏まえたりすることが有効です。これにより、研究過程での見立てや協議を客観的かつ根拠あるものとし、保育や授業づくりを統合的に進めることができます。

- ▶ [「丹後学\(令和7年度版\)」](#)
- ▶ [「地域学習副読本」](#)
- ▶ [「京丹後市文化財保存活用地域計画」](#)
- ▶ [「京丹後市文化芸術振興計画」](#)

## 1 個別最適な学び・協働的な学び

資質・能力の育成につながる「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に実現・加速するためには、ICT、特にクラウド環境を効果的に活用することが欠かせません。個別最適な学びにおいては、学習者一人ひとりの学習履歴や進捗に応じた教材や課題を柔軟に提供できるので、理解度に応じた効果的な指導が可能になります。一方、協働的な学びでは、リアルタイムでの意見共有や共同作業を促進するので、多様な視点を取り入れた学びを深める環境が整います。



協働的な学び

**非同期コミュニケーションによる協働:** クラウドベースの各種ツールを利用することで、リアルタイムでの意見交換や共同作業が可能となります。

**多様な意見の共有:** クラウド環境を活用することで、異なる地域や学校間でも、意見交流が合同での学習活動が実施できます。

**学びの場の拡張:** オンライン上の仮想空間を学びの場とすれば、プロジェクト型の学習や地域・企業と連携した活動を行うこともできます。



個別最適な学び

**学習データの活用:** クラウドに蓄積された学習履歴や成果をAI・データ分析で解析し、個々や集団の得意・苦手を把握して、適切な指導や支援を立案できます。

**柔軟な教材提供:** デジタル教材やオンラインリソースを利用することで、学習者個々のペースに合わせた学びを提供できます。

**AI技術を搭載したドリルの活用:** AIドリルを利用できる環境を整備することで、学習者一人ひとりが自分のペースや内容に合った問題に取り組むことが可能となります。

## 2 「探究的な学び」の実現・充実の基盤① ～ 個・集団のアセスメント～

現在の特別支援教育では、子どもたちが生活や学習の中で直面する困難について、様々な情報やデータをもとにその要因となるものを仮説し、支援の必要性や指導・支援の方向性を見極める「アセスメント」が重視されています。

こうしたアセスメントの考え方を、特別支援教育という枠にとどめることなく、「探究的な学び」のプロセスをはじめとする様々な保育・教育場面で意識・活用していくことで、すべての子どもたちに「資質・能力」という汎用的な力をより一層確実に育てていくことが可能となります。

### ★アセスメントの考え方を「学習活動」に取り入れてみると...【読み替え(例)】

- |               |   |                           |
|---------------|---|---------------------------|
| ○発達の状況や特性を把握  | → | 学習状況を把握                   |
| ○困難さの要因を仮説    | → | 今の学習状況につながるつまずきの要因を仮説     |
| ○合理的配慮等の支援を実施 | → | 仮説した要因に合わせて授業をユニバーサルデザイン化 |
| ○特別な教育課程の編成   | → | 「指導の個別化」の実施               |

[▶「生徒指導提要」\(令和4年12月 文部科学省\)](#)

## 3 「探究的な学び」の実現・充実の基盤② ～ 安心できる居場所づくり～

「探究的な学び」をより主体的・協働的な活動として進めるためには、子どもたちが安心して自分の考えを表現し、互いに学び合える環境が不可欠です。一人ひとりの個性やニーズ、そして集団の特徴を理解し、受け止めながら、心理的安全性の高い学級・学校をつくることで、子どもたちの「やってみたい」「もっと知りたい」といった探究心が引き出されます。

### ★活動する子どもたちのそばに足を運び...

- ・表情や態度、行動を観察
- ・つぶやきを拾う
- ・個々の感情や集団の空気感を感じ取る

### ★欠席管理(連続3日・月3日を目安に)の徹底

- (1) 一人ひとりの持ち味を生かし、誰もが活躍できる学級・学校づくり
  - ・子どもたちの多様な強みや特性を尊重し、それぞれが役割をもてる機会を創出
  - ・すべての子どもが「自分はここにいたい」「明日も来たい」と思える環境づくり
- (2) 心地よい空間づくりによる安心感の醸成
  - ・物理的な環境だけでなく、子どもたちの心の状態に配慮した落ち着いて学びに向かえる環境の整備
  - ・快適で温かみのある教室・学校環境づくり
  - ・各中学校配置の「心の教室相談員」を中心とする校内フリースクールの充実
- (3) いじめや暴力などへの組織的な対応
  - ・いじめや暴力などの未然防止に向けた学校全体での取組と魅力ある授業づくりの推進
  - ・心や身体を傷つける行為や集団の学びを後退させる言動に対する組織的な方針立てと毅然とした対応



(出所) 画像：文部科学省「学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議『新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について』最終報告

## §4 保幼小中一貫教育の枠組みの効果的活用

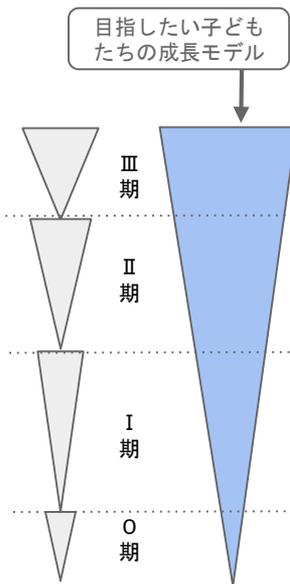
今年度で全市展開10年目を迎える保幼小中一貫教育は、校種間の接続の改善だけを目的に行ってきたものではありません。指導の適時性と指導の一貫性を追究し、一貫教育により教育内容の質を向上させることをねらってきました。こうした一貫教育の枠組みは、本市が重点化する資質・能力が短期間の指導で身に付くものではなく、「探究的な学び」を様々な教育・保育活動で繰り返すことにより身に付くものであるからこそ、さらに重要なものとなり、効果的に活用していく必要があります。

▶「保幼小中一貫教育推進基本計画」(京丹後市教育委員会)

### 1 幼児期からの一貫した系統的な学び

「環境構成」が重視される幼児教育では、幼児に対する理解に基づき、幼児の心が揺り動かされる環境や、やりたいことに夢中になれる環境が幼児とともに創造されたり、活動の流れや心の動きに即して、常にその環境が適切なものとなるよう柔軟に再構成されたりします。幼児はこのような意図をもって計画的に構成された環境の下、好奇心や探究心をもって遊びを展開する中で、気付いたり、工夫したり、試行錯誤を繰り返したりするなどの過程を通じ、達成感、充実感、困難、葛藤など多様な経験をしながら、様々な能力や態度を身に付けています。

こうして身に付けたものは、本市の目指すグローバル人材育成の土台となるので、「架け橋期」をはじめとする校種・各期の接続時には、それまでに身に付けた力をリセットすることなく、次のスタート地点ととらえ、10年間の保幼小中一貫教育を連続的・系統的な学びにします。



### 2 学園運営協議会の機能化による学校・地域の連携・協働体制の強化

本市の重点である「グローバル人材育成」に向けた各学園・学校園所の取組をより効果的に進めるためには、保護者や地域、企業との目標共有や連携・協働体制の構築が重要です。その際には、「自ら考える力・主体性を育むために、会話や人とのつながりを大切にする」という思いを関係者で共有し、対話を積み重ねる中で、子どもを育てる環境づくりを進めていくことが大切です。

- (1) 各学園の「学園目標」や「目指す子ども像」を学校園所・保護者・地域・企業で共有し、一体となって地域の子どもたちを育てていきます。
- (2) 学園運営協議会での熟議のテーマを工夫し、保護者、地域の方々と「探究的な学び」の充実に向けた地域教材・人材の開拓をより一層推進します。
- (3) 「探究的な学び」を具現化するため、地域の産業や文化、歴史に触れる機会を充実させていきます。

こうした豊かな学びを確保することは、そこに関わる大人たちの成長も促し、ひいては地域の絆を強め、地域づくりの担い手を育てていくことにつながります。

## 学校教育

### 京丹後市総合教育計画 施策02 未来を拓く学校教育の充実

#### <目指す目標指標名>

- ①全国学力・学習状況調査の各教科の平均正答率
- ②前学年までに受けた授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた割合
- ③学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると思う割合
- ④地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う割合
- ⑤先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う割合

- ⑥不登校の児童生徒のうち、学校内外の機関等で専門的な相談指導を受けていない人数

- \* ①～⑤については全国学力・学習状況調査及び児童生徒質問調査の数値  
(目標値：全国平均以上)
- \* ⑥については児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査での回答  
(目標値：0にする)

## 授業改善／資質・能力の向上

本市が目指す教育（「探究的な学び」をとおしたグローバル人材の育成）の実現に向けた授業改善・研究活動をより一層推進するため、「学びのパスポート」の質問調査から「主体的・対話的で深い学び」・「探究的な学び」に関連する項目を抽出し、分類した。

※ 現状把握のためのデータ・取組立案の根拠・授業評価の指標などとして結果を活用

### ◆主体性 調整力

- 13 自分で計画を立てて学習をしている。
- 51 はじめに目標やゴールを決めてから計画を立てるほうだ。

### ねばり強さ

- 48 難しいことでもあきらめなければ乗り越えることができる。
- 52 失敗してもあきらめずに何度も挑戦するほうだ。

### ◆対話

#### 価値理解

- 43 人の話をじっくりと聞くことで、自分の考えがまとまることもある。
- 45 自分の考えたことよりも、相手の方がよい考えを持っていると感じたときは、相手の考えを取り入れるほうだ。
- 92/98 学習するときに、ICT端末を使うことで、ほかの人と意見や考えを共有しやすい。

#### 土台になる協働性

- 44 自分の思いやしたことだけでなく、相手の思いやしたいことも考えながら行動するほうだ。

#### 心理的安全性

- 21 学校では安心して学習することができている。
- 59 普段の生活の中で、自分の考えを自由に話すことができる。

### ◆丹後学のねらいの達成

#### 地域への愛着

- 27 今住んでいる地域の自然や歴史について関心がある。
- 自己の生き方・在り方
- 22 将来の夢や目標をもっている。

### ◆探究的な学びの質

#### 課題解決過程をとおしたマインド変化

- 20 学級のみみんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。

### ◆設定する探究課題の適切さ

#### 汎用的な力の育成度

- 5 授業で学んだことは、身のまわりのできごとや日常生活に活かせることが多い。

### ◆課題解決の育成度

#### 多角的思考

- 30 自分の考えた道すじをほかの人の視点からも考えて、見つめ直すほうだ。

#### 解決意欲

- 31 わからない問題にであったとき、調べたり、さらに深く考えたりしている。

#### 柔軟な思考・目的意識

- 33 目標を達成するためのよりよい方法をいつも考え、取り組み方を変えていっている。

#### 情報収集

- 35 分からないところがあると本やインターネット、テレビなどをみたり人に聞いたりして調べる。
- 36 調べたいことについて納得がいくまで調べる。